



平成25年10月発行
発行元：茨木市
保健医療課
TEL 625-6685

茨木市に 「認知症地域支援推進員」が 配置されました。



認知症は、今や他人事では無くなってきている身近な疾患です。認知症の方の急増への対応と支援体制強化のため、平成24年度に厚生労働省より今後の認知症施策の方向性として「認知症施策推進5か年計画(オレンジプラン)」が発表されました。認知症の方の地域における日常生活の支援を強化すも、平成25年4月より認知症地域支援推進員を配置することとなりました。

「茨木市認知症地域支援推進員」の役割は何？

認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続するためには、医療・介護及び生活支援を行うサービスが、上手く連携してネットワークを形成し、認知症の方への効果的な支援を行うことが重要となります。

そのため、『認知症地域支援推進員』は、認知症の方に対して、状態に応じた適切なサービスが提供されるよう、認知症専門医療機関、地域包括支援センター、介護サービス従事者など、地域における様々な支援関係者と連携を図り、認知症の方の早期診断や早期対応、地

域で支える医療や介護サービスの構築を目指しています。

また、平成25年6月より藍野病院内に、認知症オレンジダイヤルを設置し、認知症の方やご家族、民生委員など幅広い方々からの認知症相談を受け付けています。お気軽にご連絡下さい。

「茨木市認知症地域支援推進員」からの一言

医療機関や介護保険サービス事業所など支援機関をつなぐコーディネーターとしての役割を行えるように、地域の活動に積極的に参加させていただき、各関係機関と情報交換を行い、一人でも多くの方々とのコミュニケーションをとることで『認知症地域支援推進員』の存在や役割を知っていただき、もっと身近な病気として認知症のことを理解していただければと思います。医療・介護と生活支援を行う様々なサービスが切れ目なく続くようなネットワーク作りと効果的な支援を行うことが重要とされています。

認知症 オレンジダイヤル

ココロ 晴れる

0120-556-806

受付時間 月～金曜日 午前9時～午後5時

(土日・祝日・年末年始12月29日～1月3日除く)

茨木市認知症地域支援推進員が対応しています。
通話・相談無料です。ぜひ、お気軽にご連絡下さい。

今後、この役割を行っていくにあたって認知症の方やその御家族の方は元より、地域のみなさんにもより身近な存在として相談をいただけるように頑張っていきます。

プロフィール

浅山 倫子(あさやま るこ)
(精神保健福祉士)
平成14年より藍野病院地域医療連携室のソーシャルワーカーとして勤務。
平成25年度より茨木市認知症地域支援推進員として勤務。



- ◆趣味・雑貨集め・読書・映画観賞
- ◆将来の夢…メハンディーアートを学ぶこと
- ◆好きな動物…猫
- ◆好きな食べ物…お寿司(魚介類全般)
- ◆好きな色…オレンジ(赤)
- ◆好きな花…クレマチス、睡蓮

これからの認知症診療と専門病院の役割について、藍野病院 杉野院長にお聞きしました。

「住み慣れた地域で暮らす」

みなさん、
こんにちは

藍野病院 院長の杉野です。



これからの認知症診療・ケアの目指すキーワードは『住み慣れた地域で暮らす』です。

2013年現在、厚生労働省は日本における認知症高齢の方が462万人に達すると報告を上方修正しました。

65歳以上の高齢者の15%が認知症であり、2025年には高齢者人口が30%を占めると推測される日本においては、数少ない専門医や専門病院だけによる対応はもはや困難であり、『かかりつけ医』を中心に行政や介護・福祉がしっかりとスクラムを組んだ『認知症の地域連携』による治療・ケア体制が不可欠な状況にあります。

一方で、この10年間に認知症患者さまに対するケアについても大きな意識

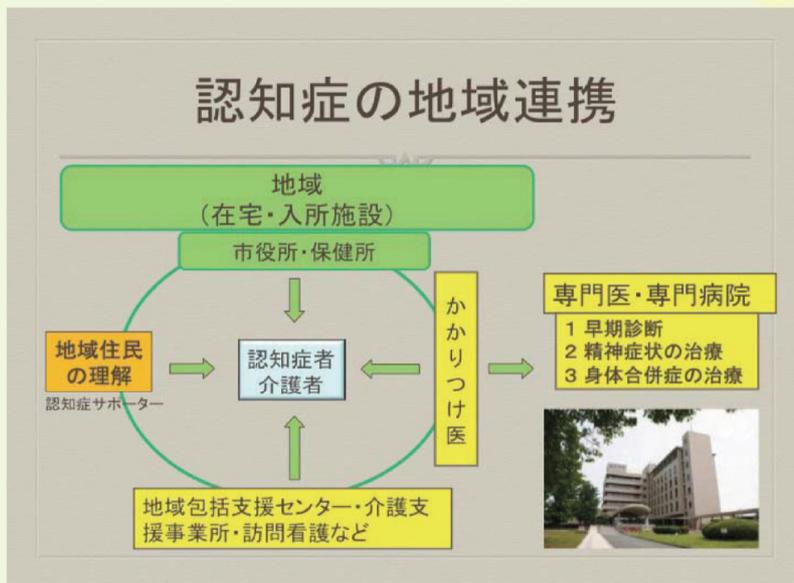
改革が起こっています。中高年にとって認知症は決して他人事ではなく、いつ自分や家族に発症してもおかしくない『よくある病気』です。

もし発症してしまった場合に『どのようなケアを受けられるか』は切実な問題です。実際に認知症を診断された患者さまやそのご家族からの声を汲み取っていく姿勢から、現在では『パーソンセンタードケア(本人中心のケア)』、すなわち『してあげるケア』から『その人らしい生活を支えるケア』への転換が求められるようになってきました。

そのためには、可能な限り最後まで慣れ親しんだ地域で暮らせる体制が必要となります。

このような今後の地域連携の中で、

認知症の地域連携



- ① 専門病院の果たす役割としては、認知症の早期診断や鑑別診断
 - ② 介護者を悩ます精神症状や行動異常(BPSD)の治療
 - ③ 認知症者に合併した身体疾患の入院治療
- の3つが求められています。

当院はこの3つの役割の全てを果たしうる数少ない専門病院として、これまで様々な活動を通じて地域への貢献を心がけてきました。

今年からは、さらなる認知症の治療・ケア向上や地域との連携や啓発活動も含めた『あいの認知症プロジェクト』を発足させました。このプロジェクトの特色は、日常から認知症に関わっている医師、看護師をはじめ、多職種にわたる職員たちが自発的に立ち上げたプロジェクトであり、その活動を病院が全面的にサポートする体制を取った点です。

これからも皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

プロフィール

医療法人恒昭会 藍野病院 院長

杉野 正一 (すぎの まさかず)

1979年、大阪医科大学医学部卒業。

大阪医科大学附属病院を経て、1983年、浴風会病院勤務。

1989年、大阪医科大学第一内科助手。

1997年、大阪医科大学第一内科講師。

2011年より藍野病院院長兼老年心身医療センター長。

医学博士。

大阪医科大学臨床教育教授。

日本神経学会認定神経内科医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本神経学会代議員、日本神経治療学会評議員。

困りごと Q&A

Q. 質問



認知症を持つ父親に「覚えてる？」と質問したら不機嫌になった。どの様に対応したら良いのでしょうか？

A. 回答



30年ぶりの同窓会で「私のこと覚えてる？」と言われ困ったことはありませんか？「30年も前のことだから」と言い訳を考えたり「覚えてなくて申し訳ない」と気まずい思いをしたりしたことはありませんか？
また、苦手な所を責められた時に不快な気持ちになったことはありませんか？

認知症の人は覚えるということが苦手になります。それも根こそぎ記憶から抜け落ちてしまいます。これは認知症の人に見られる記憶障害や実行機能障害といわれる中核症状というものです。この中核症状があることにより「コミュニケーションがとりにくかったり、もの忘れを繰り返すと言われています。」
また自分の言動に対する周囲の反応がおかしいと感じることもあるようです。私たちも周囲の人との感覚の違いを

感じて、自信がなくなる場合があります。対応としては「覚えてる？」って試すような言葉は使わない方が良いでしょう。しかし、「つい覚えてる？」って聞いてしまった時に不快な表情をしていたら「忘れることもあるよね」って、忘れていたことを何とか思い出ししてもらおうとするのでなく、自尊心を傷つけないように言葉を選びましょう。

認知症とは？

何らかの原因で脳の働きが低下した結果、もの忘れや判断力の低下などが起こり、日常生活に支障をきたすようになった状態を、認知症の状態といえます。

- もの忘れがあること
- 他の認知機能の働きの低下があること
- それにより日常生活に支障をきたしていること

この3つを全て満たす状態を、認知症の状態と定義しています。

外来ではどんなことをするの？

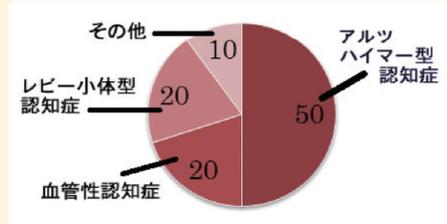
外来で何より大事なものは、本人への問診と家族への聞き取りです。これで、先ほどのチェック項目を調べていきます。

よく、脳が萎縮しているから認知症だとか、認知テストが悪いから認知症だとか、もの盗られ妄想があるから認知症だと言いますが、これは間違いです。
上の診断基準を見てください。
また、認知症の始まる前の症状として、やる気が出ない、うつなどが起こることもあり、もの忘れがなくても注意

が必要で、認知症と診断されたら、次に原因を調べます。

認知症の状態になる原因には次のようなものがあります。

日本では、アルツハイマー型認知症が約5割、脳血管型認知症が約2割、レビー小体型が約2割と言われています。そして、大事なのは残りの1割の中には治療で治るものも含ま



れているということですが。外来の大事な役割は、治せる認知症を見逃さないということです。そのため検査としては、血液検査・CT・MRIなどがあります。
血液検査では、甲状腺機能低下やビタミンBの低下で認知症状態になることがあり、補充により改善の可能性があります。
CT・MRIは、脳の形を見る検査です。脳出血・血腫・梗塞・腫瘍を見つければ萎縮の度合いを知ることができず。血腫を手術で除くことで認知症が改善することもあります。早期発見・早期治療が大切です。
それぞれの病気については、次の機会に話していきます。

認知症ケア活動報告

平成25年度

「家族教室」開催

平成25年4月20日藍野病院にて認知症ケア家族教室を開催致しました。この講座は認知症の方の家族を対象に平成25年4月から平成26年2月までの2か月に1度、全6回の講座を行う予定です。

各回の講座では、「認知症ケア」として、病気そのものや、関わり方、社会資源についてなど、医師・看護師・臨床心理士・精神保健福祉士・作業療法士・薬剤師・栄養士などの様々な職種スタッフが専門的なお話を解りやすくお伝えする予定です。

現在、第3回まで終了し、藍野病院医師である園田薫先生や病棟看護師長にお話をいただきました。超高齢社会となった今、認知症の方は年々増加しており、早期の診断方法や進行を遅らせる治療、予防の可能性、認知症の方の症状や特徴などを解り易く説明していただきました。今後も家族のニーズに合わせて、より良いお話を考えていきます。



認知症は予防出来る？

認知症には、多くの原因があり、治療可能なものや、予防出来るもの、進行を遅らせることが出来るものもあります。

予防出来る代表的な認知症は、脳血管性認知症です。これは、脳梗塞や脳出血などが原因で起こる認知症であるので、それらを予防すれば起こるリスクがぐんと減ります。生活習慣病は予防が大切。高血圧・糖尿病・脂質異常症に注意した生活をするのが大切です。塩・砂糖・脂の取りすぎに注意しましょう。

もの代表的なものはアルツハイマー型認知症です。これは、Aβ(アミロイドベータ)タンパクというタンパクが脳にたまり、脳が萎縮することで起こる認知症です。最近、微小血管に循環の障害が起こる事が原因ではないとも言われてきています。血の巡りを改善させるとタンパクがたまりにくくなる、つまり認知症が予防出来る、という証拠が出てきつつあります。

- 1 生活習慣病の予防
- 2 適度な運動

が大事です。

適度な運動については、週3回以上30分程度の汗ばむくらいの運動をすることで、脳の微小血管までしっかり血の巡りがよくなると言われています。まずは手軽に少し早足のウォーキングなどから始めてください。確実に効果があります。(持病のある方は、担当医とよく相談してください) この二つを心がける事で、認知症になるリスクは随分減らせます。



おばあちゃん、大好き

作:ミサコ 絵:あやか

その1

